

第32回

交流の森

開催日：令和7年11月15日（土）



『グリーンインフラ：自然が持つ砂防のはたらきを学び体感する一日』をテーマに掲げ、約1年半ぶりに西の交流の森を開催しました。活動には、初参加者5名を含む計20名が集まりました。

前半の活動では、班に分かれて1分間の水の浸透量を測る調査実験を行い、異なる環境下での調査結果の違いを、考察を交えて発表しました。さらに、土の団粒構造による水の浸透の違いの模型実験を見て、「森は自然のインフラ、森の手入れで災害を起きにくくする」ことを実感し、自然だけではない、森の持つ多面的な機能に関心を持つ機会となりました。



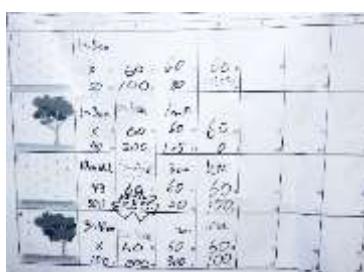
交流の森を案内



グリーンインフラ実験



ぐんぐんしみ込む水



実験の結果



各班の発表



土の団粒構造を再現した模型

後半は、管理道や看板周りの草刈り、中径木の伐採と枝払い作業などの整備活動に、積極的に取り組みました。自然に会話が生まれ、楽しいひと時になったようです。ご参加、ありがとうございました！



看板周りの下草刈り



枝払い作業



お疲れ様でした！